[dɔ̃:k]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21－4 オーデンビル

3F／Siege : Oden Building 21-4

Higashi Marunouchi Tsu JAPON

N° 38 octobre 1996 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

Le quatuor RAVEL
創立10周年事業、成功の幕開け

三重日仏協会・創立10周年記念事業の最初の行事として取り組んだ「ラヴェル弦楽四重奏団・四日市演奏会」は、9月4日夜、四日市市文化会館第二ホールで開催され、400人を越える聴衆は彼らの優雅でかつ緊張感あふれる名演奏に酔いしれました。演奏曲目は、ハイドンの「皇帝」、ベートーヴェンの「ラズモフスキー第2番」それにラヴェルのヘ長調の四重奏曲で、さらに鳴りやまぬ拍手にアンコール曲としてチャイコフスキーの「アンダンテ・カンタビレ」が演奏されました。

演奏会ののち、同会館内レストランで交流パーティーが開かれ、日仏協会会員以外の方も含めて約60人が参加。「ラヴェル」のメンバーたちは翌日早朝帰国という多忙なスケジュールにもかかわらず、夜の更けるのも忘れるように愉快に交流の輪に加わってくれました。メンバーの一人、第二ヴァイオリンの北浜レイコさんは、〈今回は「草津音楽祭」に参加してすばらしい巨匠たちと共演できた。草津以外の演奏会は四日市だけで、招いていただいて嬉しい。みんな三重県と三重県の人が大好き。ぜひ来年も三重で演奏したい〉とスピーチしていました。

なお、この事業は三重県国際交流財団の「MIEF助成金」30万円の助成が受けられ、四日市を中心とした会員の精力的な活動もあって、財政的にも成功することができました。

会員の随想

“Bravo！ TAMAKI”

滝澤秀行

６月の初め、四日市において催されたマダム・ケルンを送るパーティーのこと、浦田さんをはじめとする玉城町の方々と偶然にもテーブルを同じくし、ボルドー市郊外の町との交流のお話を伺いました。昨年６月に玉城町よりの友好団がフランス現地へ訪問し、大歓迎を受けたこと、また今夏、その返礼にフランスより友好団が来日し、玉城町の方々のお宅にホームステイし、交流を深めるとのことでした。玉城町とフランスとの民間交流についてその時はじめて聞き、不思議な話だなァと、感じていたのですが。

その後、三重日仏協会へ、浦田さん並びに玉城町役場より応援の依頼があり、フランス語堪能な武田さんをはじめ、横山（裕子）さん、米沢さん、菅谷さん、それに私が末席を汚すこととなり、“通訳”のお手伝いに出向くことになりました。

私は、“玉城町ってどんなところ？”“フランス人と生の会話が出来れば”と軽い気持ちでいたのですが、これがとんでもない思いちがい。後述するような悲惨な目にも会うことになりました。

梅雨明け間近の暑さを予感させる７月17日、前日玉城町に到着したボルドー市郊外の町、ル・テッシュ（Le Teich）よりの一行が待つ玉城町役場へ９時に着きました。これが長い一日の始まりでした。阿児町と２班に分かれた友好団は７名で、３夫妻と１名の構成でした。我々三重日仏は４名で、当初はゆったりとした気分で、玉城町のホームステイ先の面々と、まずは玉城町の小学校・中学校訪問という予定のコースの始まりです。瓦製造工場や酒造所を訪問し、彼らの質問にもなんとか答えることが出来ていたのですが。フランス式のゆっくりとした和食の昼

食と小休止を取り、夕方からは地区の公民館での歓迎会となりました。浴衣に着替えた彼らは、非常に楽しげに、団扇も上手につかって、暑さをしのいでいました。

さて歓迎会のはじまりです。町長・町会議員さん、浦田さんの挨拶の後、彼らの自己紹介となりました。いきがかりじょう、三重日仏から通訳ということで、男の私がその任に当たることになりました。昼間一日なんとか通訳が出来た（？）こともあって、ゆったりと構えておりましたところ、自己紹介のスピーチが全く理解できないではありませんか。彼らも緊張からくるのでしょうか、スピーチのスピードが昼間のそれとは異なって、非常に早く、私にはほとんど分かりません。“Encore une fois！”の連発で、事前に判っていた名前と玉城町にきた印象を織り交ぜて、冷や冷やの“通訳”をさせてもらいました。（玉城町の皆さん、どうもすみません）立食パーティーの後、外の広場で盆踊り大会が催され、見よう見まねで踊りの輪に加わった彼らは十分に日本（玉城）の夏の風物詩を楽しんでいる様子でした。夜9時をすぎ、まだ盆踊りはつづいておりましたが、我々4名はお暇することとなりました。長い一日が終わりました。

この日の後、2日間玉城町へお手伝いに出向きました。一番強く心打たれたのは、民間交流を進めている浦田さんをはじめとする皆さんの熱きパワーでした。フランス語が出来る、出来ないではなく、いかに相手をもてなすかということでした。それも自分らの日常生活の延長線上において。言葉と文化の違いにより多少の行き違いはあるにせよ、最後は心と心のふれあいが交流の基本であることを、強く認識させられました。

ル・テッシュ市一行を歓迎（玉城町）

埋め草

chef ＝ cuisinier か？

フランス語を少しでもかじったことのある人なら、シェフchefという言葉は英語のchiefに相当し、「頭（かしら）、長、指導者」などの意味であることは知っていよう。orchestreのchefは指揮者であり、cuisineのchefは料理長、日本でいえば「板長」である。なのになぜか日本のマスコミは、フランス料理のコックさんcuisinier一般をシェフと呼ぶ習慣があるようだ。「このレストランのシェフたちは…」などと平気で言い、それで通用している。

民放の軽薄レポーターならいさ知らず、「正しい言葉」の守り手であるはずのNHKテレビで最近見た番組から2例；

9月14日「男の食彩」のなか、リヨン近くの有名なレストラン『トロワグロ』の料理長へのフランス語インタビューで、「あなたが育てた日本人シェフたちの特徴は？」、〈…cuisiniers？〉〈Oui, cuisiniers.〉「彼らの特徴は…」と続くのだが、下線の部分が翻訳字幕に出てこない。つまり「シェフ」では意味が通じなかったことを隠している。

9月20日「磯村・とっておきのフランス」。番組中ある人がフランス語で、「cuisinierへの道を選んだ…」と言っているのに、字幕ではわざわざ「シェフの道を…」と訳していた。なぜそうするの？ そのうちNHKは、大工はぜんぶ「棟梁」、やくざはぜんぶ「組長」と呼ぶのかな？

(M.I)

国際交流フェスタに三重日仏「10年の歩み」展示

9月29日（日）、津市の三重県女性センターで、三重県国際交流財団主催による「国際交流フェスタ」が開催されましたが、三重日仏協会は、創立以来10年の主な活動を写真を中心としたパネル展示にまとめ参加しました。また、世界各地の食文化を紹介するコーナーでは、ドミニク・ドゥーセさん特製のフランス・パン類を提供し、参加者の好評を得ました。

ANNONCE

10／18（金）,19（土）

フランス映画〈Le Nouveau Monde〉「アメリカの贈りもの」 1995年度作品

津お城ホール　津シネマ・フレンズ例会　　一般　前売り 1,300円　　当日 1,600円

18日 1回のみ上映　　19：00

19日 3回上映　　10：15.　12：25.　14：35

監督：アラン・コルノー　主演：アリシア・シルヴァストーン　　ニコラ・シャテル

三重のピアニストが京都日仏でリサイタル

11／16（土）　北　住　　淳　リサイタル

主催　京都日仏協会、ロマン・ロラン研究所など

関西日仏学館・稲畑ホール　16：00　一般2,500円

プログラム：ベートーヴェン　　ピアノソナタ　　第21番（op.53）

第28番（op.101）

北住さんは津市出身、東京芸大卒業後ハンガリー国立音楽院に学ぶ。

現在愛知県立芸術大学講師。愛知、三重を中心に活発な演奏活動をしている。

大阪有線放送より

〈フランス語のラジオ放送を聴きませんか〉

“USEN440”では新たに、フランス国営放送R.F.J.インターナショナルと、パリのFM放送N.R.J.をプログラムに加え、24時間リアルタイムで放送しています。申し込みや資料請求は、フリーダイヤル0120－098－440前田さんまで。なお三重日仏協会・事務局でサンプルのデモテープを預っていますので、関心のある方はご遠慮なく0592－26－2766までどうぞ。

事務局より

フランス在住の知人を教えてください

三重日仏協会では、いまフランスに住んでいる三重県ゆかりの人たちと私どもとのネットワークづくりのため、予備的な作業に取りかかっております。会員の皆様でご家族、親戚、友人はもとより、少しでもご存じの方でフランス在住の方がありましたら、事務局（0592－26－2766 井土）までお知らせください。